

印西大師 番外 泉・不動堂（泉王寺）

1 名称 (No.102/203)〔手引鏡：不動堂〕〔資料館：不動堂〕〔行程表：不動堂〕

2 場所 印西市泉18 泉王寺

真常寺から東へ道程約330m。車に注意！

GPS座標 35.809966512132895, 140.13150394569917

3 由緒 真言宗醍醐派 泉王寺

泉新田村字北側にあり真言宗にして三寶院未なり 不動明王を本尊とす 延寶五年(1677年)四月十日建立(印旛郡誌)とあるが、竹袋にある三寶院は天台宗なので真言宗の「三寶院」とは？

4 御堂 大師堂の中に丸彫の御大師様が1体、大師堂の隣の石祠に御大師様が1体、計2体あり。

大師堂の中の御大師様の台座正面に弘化三年(1846年)の銘あり(印西町調査報告書(追録))

5 境内 本堂のほか、銀杏や不動明王の石像などあり。境内はきれいに清掃されていた。

6 写真 (2022.10撮影)



大師堂



御大師様



泉王寺本堂



石祠の御大師様



石祠の御大師様



本堂から山門方面

7 情報

(1) 泉王寺の漁不動

真言宗醍醐寺の流れをくむ泉王寺本堂には、不動明王・軍荼利明・大威徳明王・降三世明王・金剛叉明王の五大明王が本尊として安されています。これらは、古くか漁不動尊として、下利根川地方の猟民などから広く信仰されてきました。その昔、利根川や印旛沼、手賀沼などで漁撈や鳥猟に従事していた人々にとって、船は欠くことのできない大切な道具であり、その船を新調したときには、漁不動を参詣し、護摩を焚いて船中安全や豊漁祈願していました。参詣者の最盛期は、江戸末期から明治、大正、昭和の初期までで、その信仰の厚さを物語るかのように本堂の至るところには、絵馬や仏具など多くの奉納物が納められています。

その一つに「漁撈絵馬」があげられますが、この絵馬は、明治9年、山口吉兵衛、吉植伝右衛門らが

願主となり、印旛沼周辺の漁民計26人によって奉納されたものです。絵馬中央上方には不動明王が描かれ、全体に漁に出た漁船、簀立漁の仕掛けや四手網漁などのようすが描かれており、当時の印旛沼での漁撈の特徴を知ることができます。このほか、敷石寄進連名碑、常灯明三日護摩講勸進連名簿、大護摩台帳、講社世話人名簿などの資料も残っており、泉王寺とこの地方の人々の深いかかわりがうかがえます。(印西名所図会より)

(2) 泉王寺

真言宗で三宝院末、五大明王を本尊とする(平成6年寺院堂庵明細表)とある。やはり三宝院末とある。